

大阪市感染症診査協議会総会議事録

令和4年4月7日（木）保健所診査会室・WEB開催

（事務局 僧都課長代理）

ただ今から感染症診査協議会 総会を開催させていただきます。

本日は、委員の皆様には何かとお忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

私は、本日の進行役を務めさせていただきます、保健所感染症対策課長代理の僧都でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

まずはwebでの開催にあたりまして注意点をお伝えさせていただきます。

発表者、または質疑応答の時以外はマイクをoffにしてください。

ビデオは常にオンにさせていただきますようお願いいたします。

質疑の際には挙手、もしくはチャット機能でお知らせいただきますようお願いいたします。またチャットは発表中でも入力いただけますのでよろしくお願いいたします。

資料につきましては、事前にお送りしておりますので、そちらをご覧くださいと思います。

なお議事録作成のための録音と、ウェブソフトの関係で録画されますことをご了解いただきますようお願いいたします。

また本協議会の総会につきましては「審議会等の設置及び運営に関する指針」の第7条に基づきまして、公開となっておりますので、ご協力の方よろしくようお願い申し上げます。

では、開会にあたりまして、保健所長の中山からご挨拶を申し上げます。

（中山所長）

保健所長の中山でございます。

平素より、本市の保健衛生行政に対しまして、格段のご協力、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和4年度大阪市感染症診査協議会総会の開催にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

この度は、各委員の先生方におかれましては、公私何かとご多用のところ、「大阪市感染症診査協議会」委員をお引き受けくださいますこと、誠にありがとうございます。

また、年度当初にもかかわらず、本総会ならびに各部会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。重ねてお礼を申し上げます。

さて、ご承知のとおり新型コロナウイルス感染者は日本全国で累計 600 万人を超え、大阪市でもこれまで約 30 万人の患者が発生しており、依然として終息のめどは立っておりません。

この間、大阪市保健所は専従体制の構築などの体制強化を図りながら、各区保健福祉センターと連携して、入院、宿泊療養の調整やクラスター対策に努めてきたところです。

今後も確実な患者対応に努めるとともに、ワクチン接種についても、引き続き推進して参ります。

このように新型コロナウイルスの状況が注目を集めていますが、結核やエイズ対策も重要であることには変わりありません。

結核におきましては、第 3 次結核対策基本指針に基づき、結核患者の治療完遂を目指した服薬支援の確実な実施や、結核患者の早期発見・早期治療を徹底するため、高齢者や外国人など対象者に応じた健診事業の実施、また、あいりん地域の結核対策など、様々な結核対策事業を推進しております。結核罹患率は令和元年の 25.6 から令和 2 年は 21.0 と 4.6 ポイント減少しており、令和 3 年概数値は 17.1 となっております。

また、エイズにつきましては、平成 29 年 10 月に第 3 次大阪市エイズ対策基本指針を策定し、5 年間でエイズ患者報告数を 25% 減少させることを目標としております。最終年の令和 3 年は、速報値で 13 人と目標の 30 人以下を達成しております。令和 4 年 10 月からは、新たに策定する第 4 次大阪市エイズ対策基本指針に基づきまして、引き続き発生動向の推移を見守りながら、関係団体等と連携し、ターゲット層への正しい知識の普及啓発など、エイズ対策を展開していく予定であります。

当協議会は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく、就業制限、入院勧告・措置や入院期間の延長並びに公費負担申請に関し必要な事項を審議する場でございます。

これより議題に入っておりますが、委員の先生方には、忌憚のないご意見をお聞かせ頂きたいと存じますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

甚だ簡単ではございますが、開催のあいさつとさせていただきます。

(事務局 僧都課長代理)

それでは、感染症診査協議会寺川会長から一言ご挨拶をお願いいたします。

(寺川会長)

只今、ご紹介頂きました寺川でございます。

日頃は皆様には、大阪市感染症対策につきまして、何かとご協力頂き、誠にありがとうございます。今年度も引き続き診査協議会の運営にご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上です。

(事務局 僧都課長代理)

ありがとうございます。

次に、お手元の委員名簿をご覧ください。

この総会以外には、委員の皆様が一堂に会する機会もございませんので、恐れ入りますが、お手元にご 있습니다 名簿の順番に則り、ご所属とお名前をご紹介します。

よろしくお願いいたします。

(事務局 僧都課長代理)

大阪公立大学大学院医学研究科呼吸器内科学准教授、浅井委員でございます。

(浅井委員)

よろしくお願いいたします。

(事務局 僧都課長代理)

大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター感染症内科部長、白野委員でございます。

(白野委員)

よろしくお願いいたします。

(事務局 僧都課長代理)

医療法人育和会育和会記念病院副院長兼慢性呼吸器疾患センター長、寺川委員でございます。

(寺川会長)

よろしくお願いいたします。

(事務局 僧都課長代理)

浅香山病院中央臨床検査部長、引石委員でございます。

(引石委員)

よろしくお願いいたします。

(事務局 僧都課長代理)

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター感染制御部長、上平委員でございます。

(上平委員)

よろしくお願いいたします。

(事務局 僧都課長代理)

大阪市環境保健協会総合健診センター所長、大西委員でございます。

(大西委員)

よろしくお願いいたします。

(事務局 僧都課長代理)

大阪公立大学大学院医学研究科臨床感染制御学教授、掛屋委員でございます。

(掛屋委員)

よろしくお願いいいたします。

(事務局 僧都課長代理)

さくら法律事務所、隈元委員でございます。

(隈元委員)

よろしくお願いいいたします。

(事務局 僧都課長代理)

元大阪市健康局長甲田委員でございます。

(甲田委員)

よろしくお願いいいたします。

(事務局 僧都課長代理)

なお、本日、山田委員と友岡委員につきましては、ご欠席の連絡をいただいております。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

なお、事務局については所長含め今年度からの就任となりましたので、それぞれごあいさつさせていただきます。

(中山所長)

保健所長の中山です、よろしくお願いいいたします。

(國吉医務監)

保健所感染症対策担当医務監の國吉です、よろしくお願いいいたします。

(伊集院主幹)

保健所感染症担当医務主幹の伊集院です、よろしくお願いいいたします。

(齊藤主幹)

保健所保健主幹の齊藤です、よろしくお願いいいたします。

(事務局 僧都課長代理)

どうぞよろしくお願いい申し上げます。

なお本日、感染症対策課長の藤岡につきましては、公務のため欠席させていただきます。

続きまして、感染症診査協議会のあり方について、私の方から簡単にご説明させていただきます。

本協議会は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」いわゆる感染症法に基づき実施されるものでございます。

「感染症の種類」としましては、1類から5類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症となります。

お手元の資料ローマ数字のⅠをご覧ください。

この協議会では1類から3類、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症に係ることを診査いただきます。

新型コロナウイルス感染症は昨年2月13日より類型が変更となりまして、指定感染症から新型インフルエンザ等感染症となりました。

従いまして、指定感染症と新感染症は現在ございません。

これらの感染症につきまして、就業制限、入院勧告、入院期間延長、結核患者の医療などについて診査いただきます。

次に、お手元の資料ローマ数字のⅢをご覧ください。

本条例には感染症診査協議会を大阪市保健所の中に置くということを定め、第2条で、委員12名以内で組織することと規定されております。

第3条では、任期は2年、第4条では協議会の会長について委員の互選により決めていただくこととなっております。

また、第6条ですが、会議については委員の半数以上が出席した場合に開くことができるということになっております。

本日は委員のご出席が11名中9名でございますので、協議会開催に必要な半数を超えていることから、本会議は成立していることをご報告申し上げます。

これらの規定に基づきまして、感染症診査協議会を運営していくこととなっております。説明は以上でございます。

それでは、本日の議事に入らせていただきます。

以後の議事運営につきましては、寺川会長にお願いしたいと存じます。

会長よろしく願いいたします。

(寺川会長)

ありがとうございます。

それでは、議事を進めさせていただきます。

1つ目の議題は「令和3年 感染症対策における概況について」となっております。

事務局からご説明をよろしく願いいたします。

(伊集院主幹)

感染症対策課の伊集院です。

では、資料2から6につき私からご説明いたします

まず、資料2は結核に関する資料です。「新登録患者および罹患率の年次推移」となっております。

この資料は、2020年1月1日から12月31日までの集計となっております、上部から

順に全国、大阪府、大阪市の推移を示しています

大阪市の2020年の新登録患者数は一番下の行になりますが578例、罹患率は21.0でした。

2011年に策定された第2次大阪市結核対策基本指針では「10年間で罹患率を半減させる」ということを大目標としてさまざまな対策を実施してまいりました。

その結果、2019年に初めて罹患率が年次目標を下回り、2020年も年次目標25以下を達成できております。

その右、中程の列に示しております喀痰塗抹陽性肺結核患者数は234例、罹患率は8.5と、これも2020年の年次目標10以下を達成しております。

とはいえ、上のブロックにありますように、全国の新登録患者罹患率は10.1と大阪の約半分です。

それらをふまえて策定された第3次基本指針では、大目標を「今後5年間で罹患率18以下にする」と規定し、さらなる対策をすすめているところです。

結核については以上となります。

次に3類感染症にまいります、資料3をご覧ください。

この概要については、2021年1月1日から12月31日までの集計です。

2021年の3類感染症報告は腸管出血性大腸菌感染症のみの52例、この中で同一家族内発症は9家族20例です。

前年2020年の報告数も同数52例で、図1・図2に示しております年齢別・月別の発生数も、若年成人・気温の高い時期にピークがあるという例年同様の傾向でした。

上の表に戻りますが、血清型O-157でHUS発症が9月に1例ありました。

11歳の学童女児ですが、軽快退院されております。

次の資料4は、2021年1月1日から12月31日までの4類・5類感染症の概要となります。

4類、1番下の行、レジオネラ症は49例の報告がありました。

前年の25例から増加しておりますが、その前2019年は53例で、例年多少の増減があるものの、20例～40例あたりを推移しております。

5類にうつりまして、2020年に1例の報告があった麻疹は2021年には報告はございませんでした。

1番下になります、風しんについては前年の3例に続き、2021年は1例の報告です。

60歳代の男性で抗体価上昇により診断されましたが、感染源は不明となっております。

届出時にはすでに発症から時間が経過しており検体確保、遺伝子型確定には至っておりません。

その上の行、百日咳は 20 例の報告がありました。

ここ数年で 2019 年の 240 例から 2020 年の 54 例、さらに今回 20 例と減少傾向が続いております。

3 行上にまいります、梅毒についてです。

前年 2020 年の 638 例に続き、今回 2021 年もほぼ同数の 650 例となっています。

男女比はほぼ 1 : 1 で、4 例の先天梅毒の報告があがっています。

母はいずれも 20 歳前後と若く、うち 1 例は詳細不明、3 例は妊婦健診未受診・性風俗従事歴ありというケースでした。

2021 年は全国の多くの自治体で過去最高の報告数を記録しているなか、ここ大阪では 2018 年の 864 例をピークに増加はみられておりません。

ただし 2022 年 1 月以降の報告数は例年を上回っているという情報もありますので、今後の動向にも注意が必要かと思われまます。

次の資料 5 は HIV 感染者およびエイズ患者の状況について、となります。

左側の縦の表（1）にありますとおり、HIV 感染者数・エイズ患者数とも、平成 30 年以降の 4 年間減少傾向となっており、2021 年の報告数はそれぞれ 64 例、13 例の合計 77 例でした。

全報告数に占めるエイズ患者数、いわゆる「いきなりエイズ」の割合ですが、全国では 30% を超えているところ、大阪市では前年 94 例中 19 例の 20.2% に続き、今回は 77 例中 13 例の 16.9% と、報告数同様に減少傾向が続いております。

右側の（2）感染経路別では同性間性的接触が 67.5% と最も多く報告されました。

その下の（3）年齢区分をご覧ください。

これまで、HIV 感染者は 20 歳代・30 歳代に多く、エイズ患者は 40 歳代以降に多くみられていました。

今回の 2021 年の報告でも合計では、依然として 20 歳代・30 歳代が多くなっておりませんが、感染後数年～10 年で発症するとされているエイズ患者報告が 20 歳代に 4 例計上されてきました。

さらに下（4）国籍別・性別では女性患者が 4 例、（5）感染地域別では 77 例中 60 例が日本国内での感染となっております。

最後になります。

資料 6 は新型コロナウイルス感染症についてです。

お手持ちの資料は 3 月 15 日付となっているかと存じますので、直近の数値は口頭でご説明いたします。

まず（１）陽性者の現況です。

３月１５日までの大阪市累計陽性者数は２７４，９９４例、最新の４月５日では２９９，０３６例と約３０万例の累計数となりました。

（２）新規陽性者の推移では、資料では２月中旬からの前週比が０．９６、０．７２、０．８３、０．７０と減少傾向を示す値が並んでおりますが、この翌週から０．７５、０．８７、１．１２と増加傾向に転じました。

裏面をご覧ください。

これまでの新規陽性者数の推移を掲載しております。

上方に、新規陽性者発生数のピークについて、とありますが、２０２０年秋ごろから始まった第３波では、大阪市で２０２０年１１月２２日の２８７例、大阪府で１月８日の６５４例をもって陽性者数のピークを迎えました。

２月末には一旦落ち着きを見せた後、３月に入ると再び増加に転じ、３月中旬には大阪府で１日１００例を超えるようになりました。

これが第４波で、ピークは大阪市では４月２７日の５６１例、大阪府では５月１日の１，２６２例が報告されております。

「流行は３０歳代以下の若者から拡大する」と言われておりましたが、第４波では変異株アルファ株による影響もあり感染拡大のスピードが速く、２０歳代～５０歳代の社会生活を担う年齢層に一気に拡がりました。

２０２１年２月１７日から医療従事者を対象にワクチン接種が開始されていましたが、この第４波にその効果は間に合わず、また従来株よりも重症化するケースが増え、高齢者施設や医療機関での集団感染事例、救急搬送困難ケースも多くなりました。

６月末には大阪市の陽性者が１日５０例を切る日もありましたが、７月に入り１００例、２００例と増加し、デルタ株による第５波が始まりました。

ピークとなった９月１日に大阪市では１，２７８例、大阪府では３，００４例と、第４波ピーク時の２倍以上の陽性者数でした。

医療従事者に続いて４月１２日より高齢者を対象としたワクチン接種が始まり、陽性者に占める高齢者の割合が第４波に比べ第５波では減少していたこと、東京、大阪など大都市での集団接種や企業、大学等での職域接種により１０月中旬には全国民のワクチン接種率が６５％を超えたこともあり、第５波はその後急激に収束し、１０月、１１月には陽性者が一桁になる日もありました。

しかし、さらに新しい変異株であるオミクロン株が、１１月下旬に南アフリカから報告され、日本でも年末には第６波到来となりました。

第５波では大きな効果を発揮していたワクチン接種でしたが、時間経過とともに予防効果が減退し、とくに高齢者施設での集団発生件数がこれまでになく多くなりました。

また、デルタ株以上の感染力による感染拡大のスピードは想像以上で、集団発生への対応



が非常に困難でした。

加えて、これまでは比較的感染しにくいとされていた小児への感染拡大もこの第6波では著しく、保育園、幼稚園、学校における陽性者や濃厚接触者への対応も、非常に混乱することとなりました。

第6波は2022年2月11日に大阪府で15,291例を数えピークを迎えましたが、残念ながら第5波のような急激な収束はみられず、また現在流行しているBA.1に代わって亜種とされているBA.2による感染者も増加傾向がみられております。

発生動向については以上となります。

(寺川会長)

ありがとうございました。

ただいまの内容につきまして何かご質問ありましたらお願いしたいと思いますが。

よろしいでしょうか。

その他にご質問等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは本議案につきましては終了いたしましたので、その他の議題等はございませんでしょうか。

(委員一同)

ございません。

(寺川会長)

それでは、本日の議事はこれで終了させていただきたいと思います。

(僧都課長代理)

寺川会長ありがとうございました。

それではこれを持ちまして「感染症診査協議会総会」を終了させていただきます。

ありがとうございました。